

7. 戦後のアメリカ軍による接收期

戦後編です。

たび重なる空襲で焼け野原となった名古屋で、公会堂は奇跡的に被害を免れました。しかし終戦翌月の1945年(昭和20年)9月26日より、進駐軍に接收されることになりました。

アメリカ空軍名古屋基地の司令部が置かれ、また米兵の厚生・娯楽施設として大ホールは主に映画館、4階ホールはバスケットボールなどの室内競技場になりました。



正面玄関の看板は
「HEADQUARTERS NAGOYA AIR BASE」



屋上には星条旗



TOPS IN BLUE は毎年オーディションで選ばれた
現役軍人による歌・演奏・ダンスのパフォーマンス集団

当時の様子を伝える落書きが現在も2階照明室の壁に残っていますが、これは1953年(昭和28年)に空軍のパフォーマンス集団<TOPS IN BLUE>のショーが開催されたと書かれています。

ただし、アメリカ空軍接收中の公会堂は、日本人が全く使えなかったかといえば、実はそうでもありませんでした。

当時名古屋には、空襲で焼失するも 1947 年(昭和 22 年)に再建された御園座以外には、松坂屋ホールや名宝文化劇場など中規模ホールがわずかにあるだけで、大規模公演の場が圧倒的に不足していました。

そんな中、米軍関係者に一定数の席を確保する条件で、1948 年(昭和 23 年) 10 月の長門美保歌劇団〈蝶々夫人〉を皮切りに、オペラやバレエの公演、オーケストラ演奏会などがたびたび開催されるようになりました。

とはいえ、日本人がホールを使えるのは米軍の行事のない金曜日のみ、正面玄関は通行禁止のため建物側面から出入りするなど、不便を強いられていました。それでも、戦後徐々に市民の芸術鑑賞意欲が高まる中で、公会堂の果たした役割は大きなものがありました。



昭和26年頃 東京(旧東宝)交響楽団
指揮は上田仁、ピアノは園田高弘。このほか、
東京フィルハーモニー交響楽団、関西交響楽団、
地元では(旧)名古屋フィルハーモニー交響楽団、
名古屋交響楽団などがたびたび公会堂で演奏
しています。